

基 調 講 演

テーマ：出雲市多伎町での地すべり発生の地質学的背景

講 師：島根大学 総合理工学部 教授



略 歴

- 1969年 千葉県南房総市富浦町生まれ
- 1992年 筑波大学第一学群自然科学類 卒業
- 1994年 筑波大学大学院博士課程地球科学研究科 中退（修士取得）
- 1997年 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻後期課程 修了
- 1997年 日本学術振興会特別研究員（PD 京都大学 11月まで）
- 1997年 京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻 助手（12月から）
- 2002年 島根大学総合理工学部地球資源環境学科 助教授（准教授）
- 2017年 島根大学総合理工学部地球科学科 教授（現在に至る）

研究活動・著書他

専門は地質学，とくに地層学・堆積学．ネパール・ケニア等での海外での堆積地質学的研究のほか，山陰地域の日本海沿岸地域の地層を対象として，およそ2000万年前から1000万年前の日本海の拡大期の環境復元・西南日本の成立に関する研究を行っている．

Sakai, T., Gajurel, A.P. and Tabata, H., 2015, Seismites in the Pleistocene succession and recurrence period of large earthquakes in the Kathmandu Valley, Nepal. *Geoenvironmental Disasters*, 2 (25), 1-17.

Sakai, T., Zaree, G., Sawada, Y. Mirzaie Ataabadi, M. and Fortellius, M., 2016, Depositional environment reconstruction of the Maragheh Formation, East Azarbaijan, Northwestern Iran. *Palaeobiodiversity and Palaeoenvironments*, 96, 383-398.

日本堆積学会（編），2022，フィールドマニュアル・図説 堆積構造の世界．朝倉書店，210p.（分担執筆）

講演概要等

出雲市多伎町では，過去約10年の間に山陰道，国道9号線沿いで比較的規模の大きな地すべりが数件発生している．そのエリアには大森層と呼ばれるおよそ1500万から1400万年前に形成された火山岩や堆積岩類が分布する．このエリアの地すべりの素因として，山から国道に向かって傾く流れ盤構造，礫岩に挟まれる凝灰岩や泥岩の存在がすでに指摘されている．しかし，凝灰岩や泥岩の分布は正確には把握されていない．今後の地すべり災害の軽減のためにも，リスク評価の基礎となる地質情報（とくに地すべりリスクを高める地質の分布情報）の高度化は急務である．多伎町小田周辺は比較的規模の大きな地すべりが複合した，地すべり多発地帯となっている．この周辺の詳細な地質調査の結果，地すべりリスクを高める凝灰岩が，従来考えられていたより広い範囲に分布することがわかった．また地すべり土塊の調査から，地質図には表現されていない，失われた地質が存在することも明らかになった．ここでは調査結果を紹介するとともに，高精度な地質調査の重要性を示す．